

富山県ポリナビワークショップ（若手会員研修会）

開催日時：2020年12月12日（土）9：30～12：00

会場：富山県看護研修センター

講演 「なぜ国会に看護職員がいなければならないか」

参加者：39名、青年部委員含む役員 16名

講師 石田まさひろ参議院議員 政策秘書 五反分 正彦 先生

意見交換会「現場からほえる！届けよう看護の声を！私たちの未来へ～」

コーディネーター 富山県看護連盟青年部委員会 委員長 盛田 大樹

三谷会長挨拶 若手看護職者の政治参加を活性化することが、看護連盟の長年の大きな課題であった。ポリナビは、「政治・政策というアプローチの中で自分たちのできることを模索し、日本の医療を今より素敵なものにすること」を目指して発足した若手看護連盟会員による集まりである。若者でなければ発想できない企画・運営そして若い会員の底力に今後の活躍を期待したい。



【研修会内容】

＜第一部 講演要旨＞

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、看護職は大変苦労している。石田議員は、厚生労働委員会に所属し、4月3日令和2年度初の参議院本会議で自民党を代表し「代表質問」を行った。安倍総理への代表質問のポイントは「国民を守るため、日本政府の全力を挙げて医療を守るべし」であった。また、「くじけることなく、緩むことなく、なお一層、的確な行動を深めるには、必要とあらば、緊急事態宣言を出すことも視野に、政府対策本部のもう一段強いリーダーシップが必要である。」とも述べた。我が国は、欧米と比べ病床あたりの看護職員数や医師数が半分以上しか配置されていないこと、医療従事者のぎりぎりの誠意に制度が依存してきた。日本の医療の現実、治療に必要なガウンや感染防護物品、人工呼吸器、感染症に対応できる病床も不足しており、現場に危機感があふれているとも述べた。石田議員の代表質問を受けて、4月7日安倍総理の記者会見では緊急事態宣言が発せられ、冒頭で、医療従事者への感謝の意が述べられた。その後多くの著名人からも感謝の言葉が発せられ「エッセンシャルワーカーへの感謝とみんなで支えよう」という社会運動に発展した。石田議員が尽力し、実現した施策の一つに「医療機関の経営の維持 診療報酬の適応拡大による病院収入の確保や、重症患者を受け入れた場合、ICUの点数を3倍にするなど通常より長期間の算定が可能に。新型コロナから回復した患者を受け入れる後方支援病床の評価の充実他。「訪問サービス等の手続的の要件の緩和」では限られたスタッフで少しでも多くの利用者の健康状態を把握し対応できるような緩和措置」「マスクなどの防護具などを現場に送るシステムの構築」など多岐にわたる。現在、国会議員は衆議院と参議院合わせて707人在籍しているが、その中で「特定行為」「入院基本料」「入院支援加算」「潜在看護師」などについてきちんと答えられる国会議員は少ない。そのためにも看護職国会議員が必要である



＜第二部 意見交換＞

- (参加者からの質問)
- 1 地方の救急医療について、現場では医療崩壊を感じている。
 - 2 看護師の人員や物資について
 - 3 病棟に入院中の患者さんの介護度が高く、スタッフの身体的苦痛が大きい。
 - 4 2025年問題に対し地域包括ケアシステム推進を進めているが、今回のコロナの影響は。
 - 5 感染対策による面会制限のため洗濯物などの受け取りも看護師が行っており、仕事量が増えている。
 - 6 重症心身障害児、肢体不自由病棟勤務。慢性的な腰痛や肩こりの訴え。
 - 7 コロナだけでなくMRSAなど、その他の感染症の増加リスクが心配。



【まとめ】

現在、コロナの第3波と言われ医療崩壊が危惧される中、現場で不安や様々な苦痛を感じながら職務を遂行されているスタッフに対し、政府としてどのようなバックアップがなされてきたかの経緯や課題を知ることができ、政治の重要性を感じると共に身近に感じる事が出来た。また、他病院のスタッフの意見を聞くことで、自分だけでなくみんなで戦っているのだという安心感や団結力を持つことができた。今回の研修で、政治と連盟の関係性をより深く理解し、多くの事を学ぶ機会となった。